

2. 与条件の確認・整理

2-1. 上位計画

本計画の上位計画となる大雪山国立公園計画及び大雪山国立公園管理計画の概要を以下に整理する。

2-1-1. 大雪山国立公園計画

大雪山国立公園は、昭和9年12月4日に指定された。その後昭和13年に特別地域が指定され、昭和46年に特別保護地区が指定され、平成7年に公園計画の再検討が行われ、平成15年に施設計画の一部変更が行われ、現在に至っている。

(1) 規制計画

大雪山国立公園のうち、上士幌町にかかる公園区域面積は51,475haである。そのうち、石狩岳連峰やニペソツ山の稜線付近など特別保護地区は1,191ha、ウペペサンケ山の稜線付近など第1種特別地域は6,034ha、糠平湖周辺など第2種特別地域は6,222ha、音更川流域など第3種特別地域は29,104ha、その他の部分である普通地域は8,923haが指定されている。また、特別地域の大部分が乗入れ規制地域に指定されている。

(2) 施設計画

上士幌町内においては、以下のとおりの施設計画となっている。

○集団施設地区

十勝三股、糠平

○単独施設地区

園地：三国峠、糠平ダム、幌鹿峠、

避難小屋：岩間温泉

宿舎：幌加温泉、

スキー場：糠平温泉

○車道：大雪ダム糠平上士幌線、士幌然別線、糠平然別線

○歩道：糠平湖畔線、十勝三股ニペソツ山線、石狩連峰縦走線、糠平ウペペサンケ線、糠平天宝山線、然別峡ウペペサンケ山線、天望山周回線、北海道自然歩道線

2-1-2. 大雪山国立公園管理計画（平成19年6月作成（抄））

(1) 管理の基本方針

1) 保護に関する方針

本公園の特徴である高山植物群落、原生的な状態を維持する森林、湿原、滝、溪谷、周氷河地形、永久凍土、構造土等などの地形地質や火山活動に由来する柱状節理などの地形地質の厳正な保全を図るとともに、外来生物の定着・繁殖を防ぎ、高山帯に生息・生育する希少な動植物とそれらを中心とする生態系を保全する。特に、山岳部の雄大で奥深い原生的な自然景観については厳正に保全を図るとともに、山麓部の良好な眺望の確保に配慮する。

保護方針の要点は以下のとおりである。

本公園の良好な自然環境について、特に原生的な自然環境を有する地域を厳正に保護する。

高山帯等、本公園の核心の景観及び特徴的な風致景観の保護を図る。

希少野生動植物について、人為による直接的及び間接的な悪影響を防ぐために必要な保護策を講じる。

地球温暖化の影響を受けやすい地形地質・生態系の変化を把握するために情報の収集を図る。

外来生物の侵入・定着を阻止するため、必要な施策・方策を講じる。

2) 利用に関する方針

本公園の利用に際しては、自然としてふさわしい良好な利用空間を確保するとともに自然とのふれあいの増進が図られるよう、各種基盤施設の整備充実と自然解説等ソフト面の対策の推進を図るとともに、自然環境の保全に対する配慮がなされるよう、適切な利用への誘導を図る。

利用方針の要点は、以下のとおりである。

地域あるいは登山道ごとに利用のあり方を確立する。登山道、避難小屋等の整備や維持補修に当たっては、利用のあり方に応じて内容を決定するとともに、山岳部のトイレ対策について一定の方針と体制を確立する。

利用拠点でもある温泉街の活性化に向け、源泉の保護を図りつつ、温泉地及びその周辺部の自然環境、社会条件、利用状況等を踏まえ、必要に応じ利用推進のための施設を整備する。

景観にそぐわない広告物や音楽など利用者が不快に感じる演出の抑制・改善などにより、静穏な環境を維持するよう努める。

集団施設地区における整備計画及び景観の向上にも配慮した再整備計画等に基づく各種公共施設の整備の推進を図る。各施設の管理については、設置者が関係機関の協力の下、適切な管理を図るものとし、周辺の公園事業者及びパークボランティア等の協力も要請するものとする。

自然環境損壊の防止と、快適な利用環境確保の両立のため、自然環境・立地条件・季節性を踏まえ、マイカー規制等を行いながら適切な利用を推進する。

本公園に特有の問題としてヒグマと人の距離が近いことから、公園利用者にヒグマに関する情報の迅速・正確な提供によりヒグマによる危害の防止に努め、ヒグマの保護と公園利用の安全な両立を図る。

利用者への適切な情報の提供とマナー向上の促進により快適な利用環境を確保するため、大雪

山の自然環境、利用方法、交通事情、季節的事項等について、ビジターセンター等現地の拠点となる施設やインターネット等を通じてタイムリーに広く適切な情報を提供する。

自然に関する知識だけでなく地域の人々と大雪山との歴史を踏まえた今日の関わりや、温泉利用に関する事など幅広い情報を収集、提供する仕組みを構築し、エコツーリズム等を通じた地域振興や環境学習に活用する。

(2) 利用形態及び整備方針

1) 糠平集団施設地区

本公園東大雪地域最大の利用拠点である。近年のアーチ橋探勝客の増加、宿泊事業者の努力等により利用者数の回復が期待される。温泉浴利用者がみられるほか、冬季もスキー場利用者の安定した入り込みがある。利用形態は、宿泊が主体で、通過観光型に近いが、地区内に博物館や野営場、湖畔探勝の園地等が整備されており、民間による自然ガイドなども行われている。地区内には廃屋や外観の老朽化した建築物等が放置される等、景観上問題となっている。今後、上士幌町の「ひがし大雪エコミュージアム構想」とも連携し、滞在型の自然とのふれあいが可能な利用拠点として再整備計画の検討を進める。

2) 十勝三股集団施設地区

石狩連峰、ニペソツ、西クマネシリ等の高い山岳に囲まれた静かな高原である。

今後は自然回復を行う場及び自然回復の過程を学習する場として関係機関と調整を行いつつ、必要に応じて整備を検討していくこととするが、当面は自然環境の回復に努めるものとする。

(3) 普及啓発

1) 利用者タイプ別基本方針

日帰り観光客に対する方針

単なる名所の通過型観光にとどめることなく、自然に対する理解や訪問者が守るべきルールについて利用者の理解を深めるため、大雪山を特徴づける景観の成り立ちや動植物の生態などを分かりやすく情報提供するよう努める。

また、手軽に楽しめる散策コースの整備を図り、ビジターセンタースタッフやパークボランティア等による自然解説やセルフガイドパンフレットなどソフト面の充実もあわせ、自然とのふれあいができる利用への誘導を図る。

宿泊観光客に対する方針

自然に対する理解を深めるための時間や機会は、日帰り観光客よりも格段に増やすことが可能であることに留意する。

各宿泊施設の役割が大きく期待され、周辺の自然を紹介・解説したビデオ・本などをロビーや各部屋に配備し、従業員等が周辺の見所や自然情報を説明できる体制を整えるなど、公園事業者としての資質を高めるよう協力を求める。

また、ヒグマの出没や登山道の危険箇所等の情報を宿泊施設で提供できる体制を整える。

さらに、公園事業者やビジターセンタースタッフ、パークボランティア等による早朝観察会等の展開を図る。

2) 集団施設地区別方針

糠平集団施設地区

糠平温泉自然探勝路（小鳥の道）は樹林帯や溪谷に面した変化に富んだ自然探勝ができるコースである。また、整備を進めている北海道自然歩道線歩道は、アーチ橋等も鑑賞でき、多様な自然体験が可能なコースである。関係団体とも連携しながら、セルフガイドパンフレットの整備や各ホテル等での情報提供などにより積極的な活用を図る。

十勝三股集団施設地区

エゾシカ、エゾモモンガ、エゾリス、クマゲラ等が生息し、湧水による湿地や典型的な倒木更新が観察できる森など、野生動物との出会いや多様な自然の観察等、質の高い自然体験ができる地区である。今後、必要に応じ自然解説活動等ソフト面も含めた整備を検討する。

3) ビジターセンターの利用、運営

整備や再整備が予定されているビジターセンターについては、開放的な利用情報カウンターを内部に設けるなど、マンツーマンによる情報提供を積極的に行えるよう留意する。

また、パークボランティアが常駐できる体制を整え、積極的な参加を呼びかける。

さらに、気象情報、動植物の生息情報、利用規制、アクセス、利用マナー等について、リアルタイムに情報を提供できるよう、情報掲示板などを工夫する。

ビジターセンター相互の情報交換とその活用を図るため、リアルタイムの自然情報等をお互いに交換し利用者に提供できるよう、ファックスやインターネット等の積極的活用を検討する。

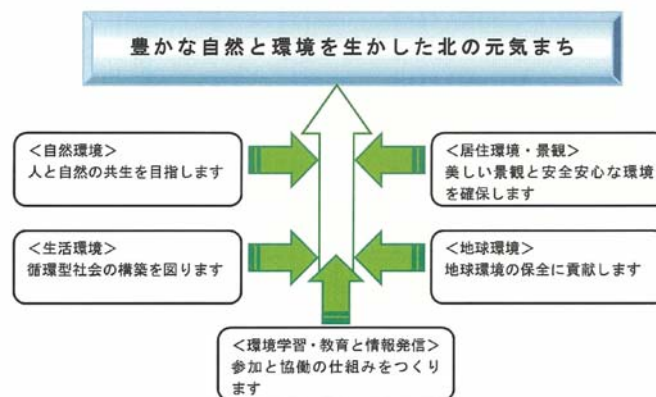
また、関係行政機関の協力のもと、広く一般の人に対して、インターネット等で公園利用前に情報提供することについて検討する。

2-2. 関連計画

本計画の関連計画となる「上士幌町総合計画」、上士幌町環境基本計画、東大雪エコミュージアム構想、イムノリゾート上士幌構想について概要を以下に整理する。

2-2-1. 上士幌町総合計画

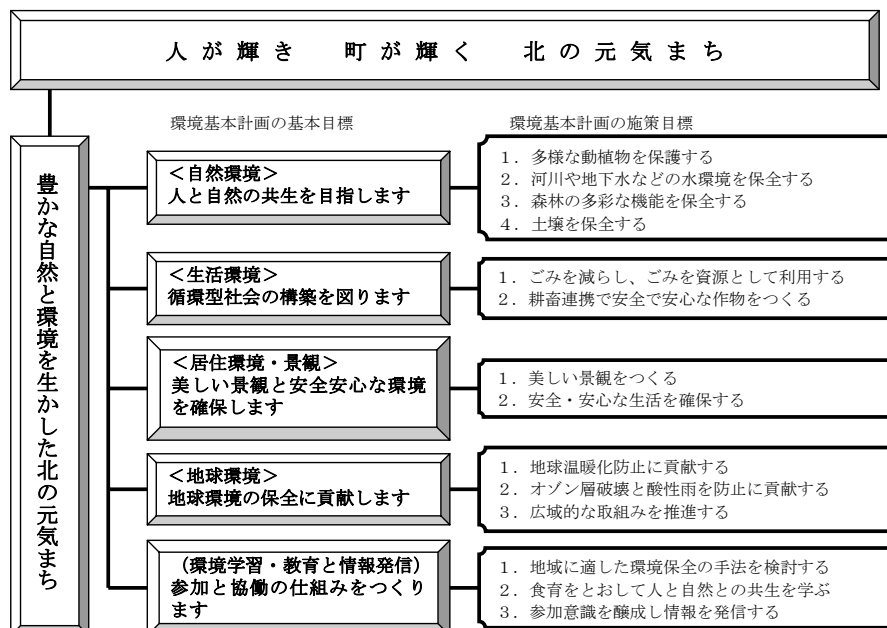
第4期上士幌町総合計画(平成14年度～23年度)では、まちづくりの基本目標を「人が輝き まちが輝く 北の元気まち」とし、その施策の大綱に『豊かな自然と環境を生かした北の元気まち』を位置づけている。



2-2-2. 上士幌町環境基本計画

上士幌町では、第4期上士幌町総合計画並びに上士幌町環境基本条例に基づき、上士幌の豊かな自然と恵まれた環境を全ての町民が享受し、将来の世代に引き継いでいくため、目指す環境像を定めてそのための基本目標や地区別目標、施策方針を明らかにする「上士幌町環境基本計画」(平成18年12月)を策定している。

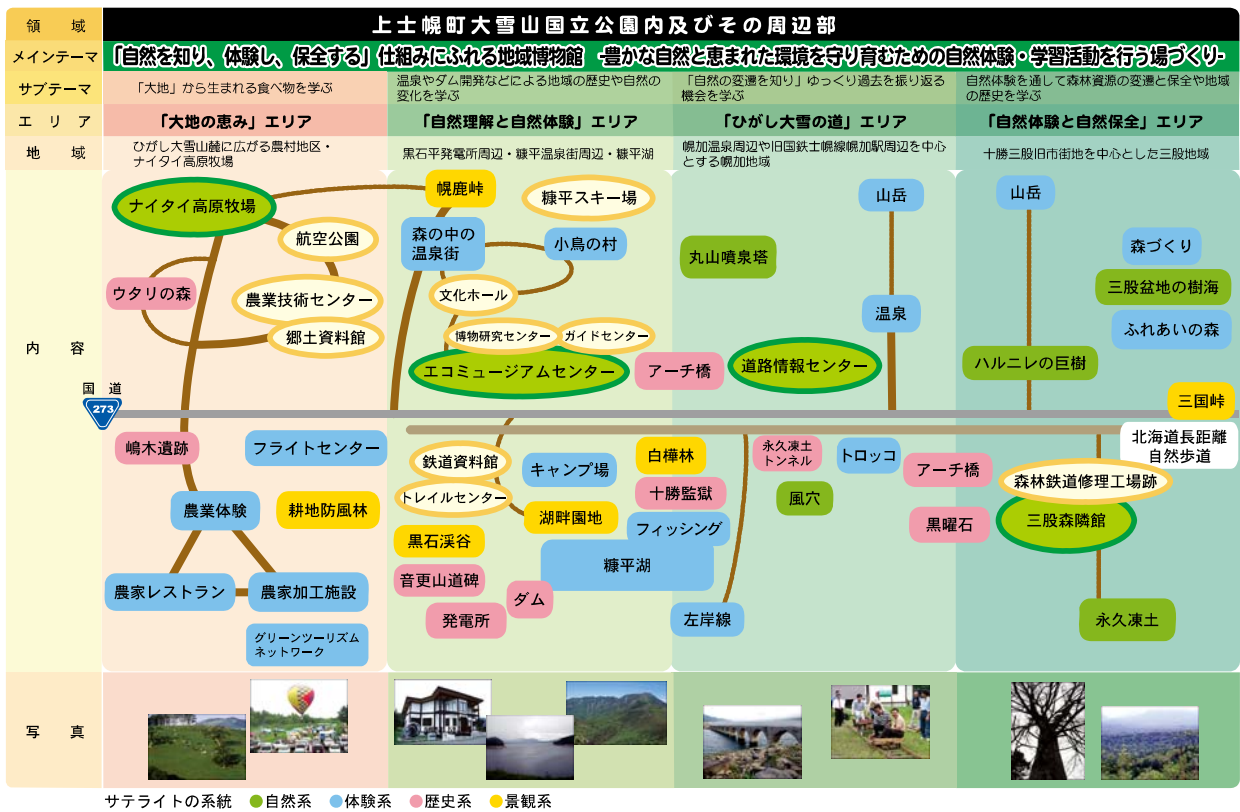
第4期総合計画 基本目標(まちづくりテーマ)



2-2-3. ひがし大雪エコミュージアム構想

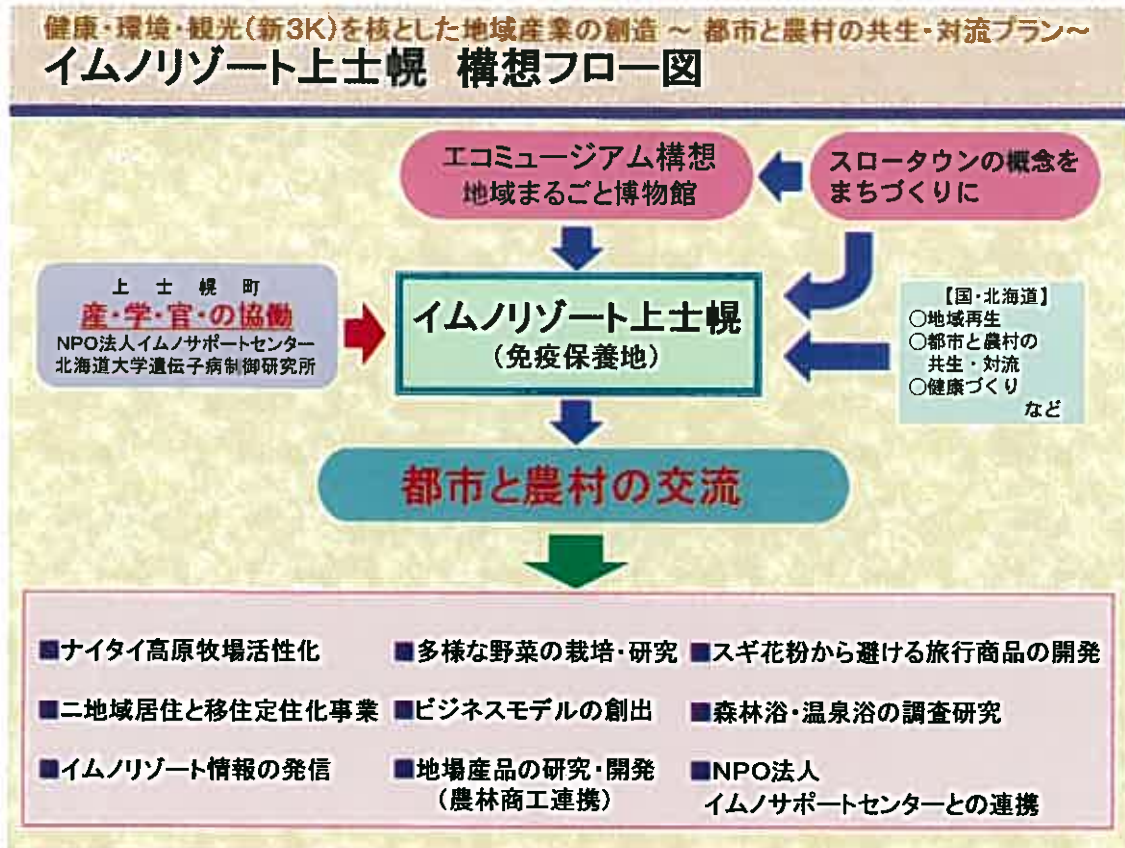
上士幌町では、大雪山国立公園内の自然環境を保全、育成し、自然との共生を目指す「環境のまちづくり」を基本目標とし、ぬかびら源泉郷を中心とする地区とその周辺を、自然とふれあいや地域の歴史を学びながら自然保全のあり方を知る地域博物館（エコミュージアム）と位置づけ、「ひがし大雪エコミュージアム構想」（平成15年度）を進めている。ぬかびら源泉郷周辺は「自然理解と自然体験」エリアとして森の中の温泉街づくり等が進められており、十勝三股周辺は「自然体験と自然保全」エリアとして自然体験を通して森林資源の変遷と保全や地域の歴史を学ぶ場所として位置づけられている。

ひがし大雪エコミュージアムの基本構造図



2-2-4. イムリゾート上士幌構想

「イムリゾート上士幌構想」(平成16年12月)は、まち全体の豊富な地域資源を活かした健康と癒しの観光プログラムを開発するとともに、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農村の共生と対流による地域活性化を図ろうとするものである。



2-3. 生物多様性の保全

平成20年6月6日に施行された生物多様性基本法では、生きものが持つ個性とつながりがもたらす恵みを将来にわたり上手に利用していくために、野生生物とその生息環境、及び生態系のつながりも含めて保全することとされている。また、平成22年10月に愛知県でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催され、その中で「生物多様性の認識を高めていくこと」「絶滅危惧種のなかでもっとも減退している種の保全状況を改善していくこと」等を目標とした「愛知ターゲット」が採択された。